

平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	新興・再興呼吸器感染症への対策事業費		担当部局庁	国立感染症研究所		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	総務部会計課		課長 星野 真	
会計区分	一般会計		施策名	IV34			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	呼吸器は感染症の侵入門戸となりやすいため、新型の感染症は呼吸器感染症としてみられることが多い。国民の生命を脅かすような呼吸器感染症に常に対応できる体制を構築し維持する必要がある。多くの重篤な呼吸器感染症が既に出現しており、大流行となった場合に備えて、迅速診断法の開発や予防法や治療法開発を行うことを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	2000年以降に新たに発見された、あるいは、地域的アウトブレイクが顕在化した重篤な呼吸器感染症である、ガッティ型クリプトコックス、ヒトメタニューモウイルス、NL63ヒトコロナウイルス、ヒトポカウイルス等のウイルスによる呼吸器感染症を対象として以下を実施する。 (1)平成24年度までに迅速診断法を開発し、その有効性を平成25年度までに評価する。 (2)上記診断法を使用し、平成26年度までに発生動向を調査し、ワクチンや治療法開発の研究を開始する。 (3)平成27年までに地衛研等に上記診断法を普及させる。 (4)公衆衛生学的に問題が顕在化した呼吸器感染症が流行すれば、これを優先し、迅速に診断系を構築し地衛研に普及させる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算			14	13	12
		補正予算					
		繰越し等					
		計			14	13	12
		執行額			14		
	執行率(%)			100.0%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	現在、迅速診断法の開発をおこなっており、定量的な指標は示せない。	成果実績	-				-
		達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	現在、迅速診断法の開発をおこなっており、定量的な指標は示せない。	活動実績(当初見込み)	-				(-)(-)
単位当たりコスト	- (円/)		算出根拠	-			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	備品費	0	0				
	消耗品費	9	8				
	賃金	4	4				
	計	13	12				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	保健医療の向上や感染症に関する研究を行うことが国立感染症研究所の責務であり、国の感染症対策に寄与する事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	感染症法に基づく国の責務を踏まえ実施している事業である。
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	—
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	会計法に基づき適切に契約を行い、競争性を確保している。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	少額の契約であっても複数社から見積を徴収し、最低価格で購入するなど、コスト削減に努めている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業の適切な遂行について、必要な経費に限定されている。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	感染症における唯一の国立試験研究所であり、実効性は高い。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	—
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	活動実績は見込みに見合ったものとなっている。
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	—
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—
点検結果	事業に必要な検査試薬、消耗器材等について、会計法に基づき契約を行い、経費の節約もすすめ、適切な対応を行っている。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	本事業は、感染症対策の推進に係る試験研究の遂行に必要な経費であるが、執行状況及び事業計画等を見直し、必要な予算計上とすること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	消耗品について経費削減を行い、要求額について一部改善を行った。		
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	新23-041

※平成23年度実績を記入

国立感染症研究所
14.41百万円
新興・再興呼吸器感染症への対策事

A. 事務費
14.41百万円
(賃金・消耗品・備品)

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.株和科盛商会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
備品	遠心濃縮装置	1			
計		1	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株和科盛商会	遠心濃縮装置	0.84	随意契約	
2	株池田理化	正立型システム顕微鏡	0.78	随意契約	
3	株池田理化	顕微鏡	0.68	随意契約	
4	非常勤職員A	賃金	0.49	随意契約	
5	非常勤職員B	賃金	0.47	随意契約	
6	東邦薬品(株)	真菌用薬剤感受性測定プレート	0.43	随意契約	
7	株池田理化	制御用PC	0.39	随意契約	
8	岩井化学薬品(株)	フローズンプレート	0.29	随意契約	
9	岩井化学薬品(株)	PCR用試薬	0.12	随意契約	
10	株和科盛商会	スチール棚	0.09	随意契約	